

若林久美子先生選評



鈴木芳陽 推選
羊毛筆を自在に操り、特性を活かした濃厚な線が魅力。呼吸が深く、全体を貫いて自然な行の「うねり」が心地良く、艶やかでしつとりとした作となった。

稲橋美和子 推選
行草の流れに沿って、銜うことなく、筆の中心をしっかりと捉えながら筆が自由に遊んでいるように楽しい。字形にもゆとりが見えて深刺としている。

金子芳彩 推選
自由な発想と軽妙な動きに魅きつけられる。文字のデフォルメも独創的だが懐が広く温かい。所々に細い直線を配すなど、余裕と奥深さを感じる。

森田茉香 推選
研ぎ澄まされたような直線が爽快に紙面を舞っているよう。気負わず剛毛筆の特性を楽しんでいる。文字の大小、振幅も自然体で、余白も効いている。

高野清玄先生選評



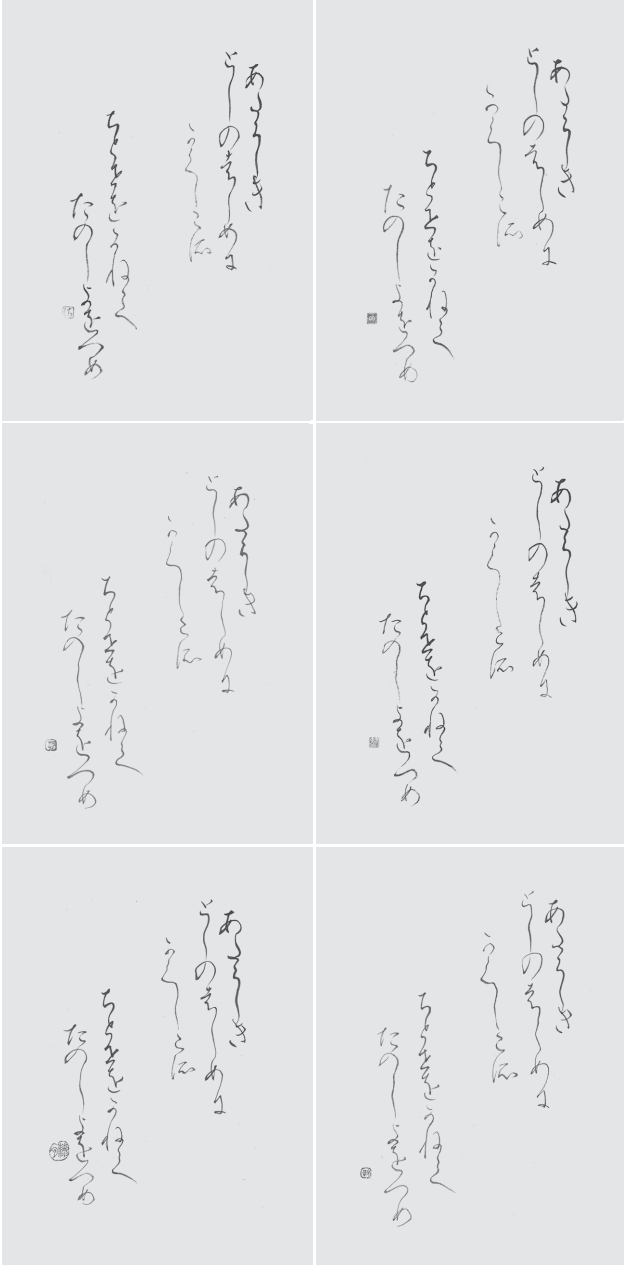
森田 茶香 推選
 多くの方が速書きであったが、ゆったりとした連筆で一字一字に心が込められている様な書きぶりである。そして間の取り方が良い。空間の美は作品の余裕だ。

滝沢 帛霞 推選
 柔らかい筆致で全体を貫くりズムが良い。文字の大小を上手く混ぜ合わせて程良い調和を取り自然体でまとめられ隙のない作品である。最後「沖」やや大きかった。

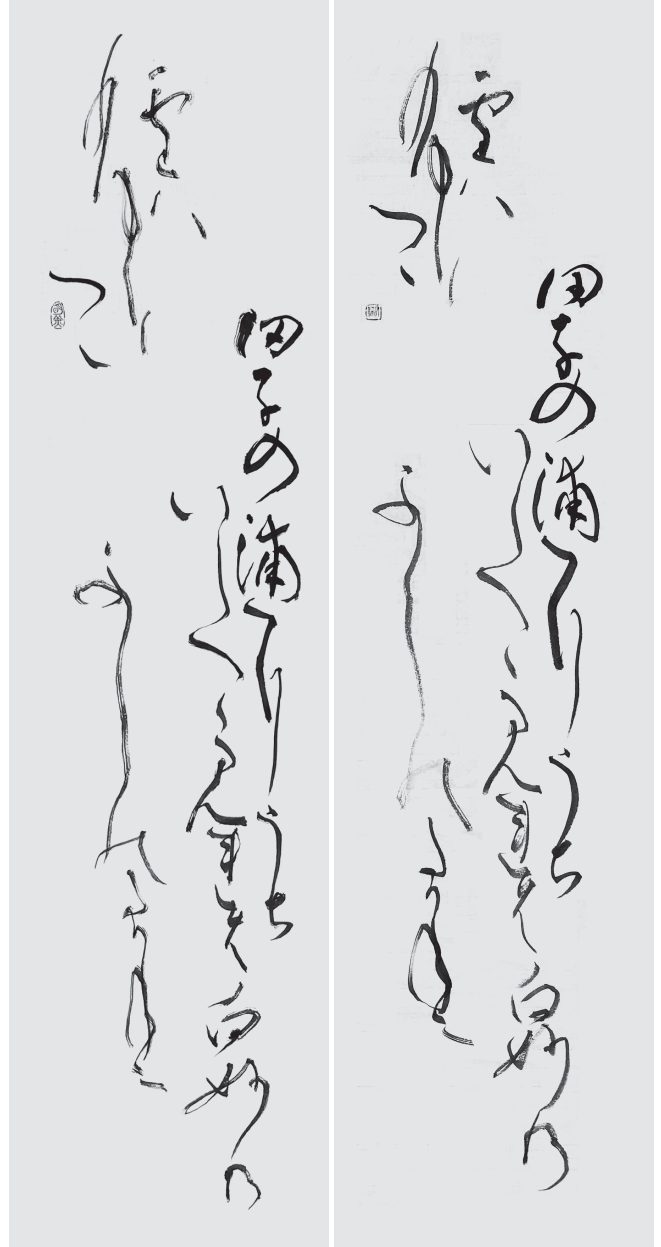
大竹 百香 推選
 大胆にグイグイ書き進める筆者の気持ちがちやちらに伝わって来る。「別」や大きいがそれも勢いの一つで健康的な元氣澆刺な作品として魅力を放っている。

石川 未来子 推選
 線質が強い。つまり筆毛が立っているのだろう。毛先が紙面をしっかりと捉えているから筆の開閉も安定している。だからその渴筆は美しく我々を魅了する。

吉澤真理先生選評



露崎桂子先生選評



大鈴佐智子 八段
 庄のかかった筆線がリズム良く流れ清涼感がある作となりました。行にゆらぎが加わると作品に深みが増し、趣が出てくるでしょう。

吉村 都 七段
 淡い墨色と優しい表情の作品は仮名の雅を感じさせます。字間に留意し紙にくい込む線を加えると更に原帖の味わいを表現できるとおもいます。

齊藤直子 四段
 伸び伸びと大らかに連筆され堂々の作です。渴筆表現をしっかりと出すとより魅力的になります。雅印大きすぎたのが惜しまれます。

伊藤貞子 師範
 原帖の連綿の巧妙さをしっかりと読み取り丁寧に運筆され格調高い作です。浮沈の効いた線条はぬくもりある筆線で心地良いリズムを奏でています。

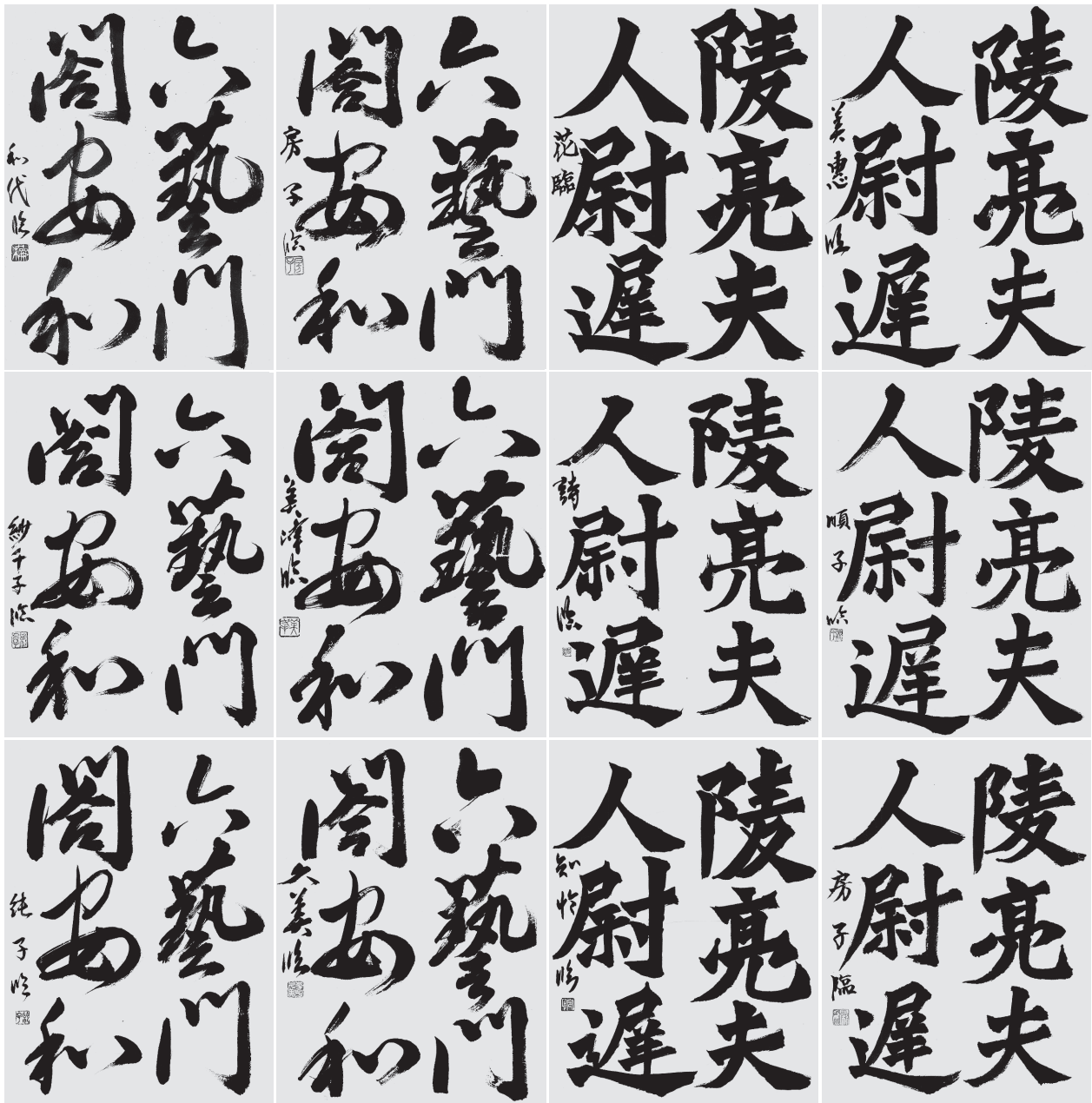
畑井智子 師範
 ゆったりとした大らかな連筆で厚みのある筆線が魅力です。少し濃いめの墨色と潤濁の変化が相まって、明るい作となりました。

川原政子 準師
 落ちつきのある連筆でしなやかな筆線は原帖の特徴を捉えています。前半に渴筆が加味されると立体感が増し更に表情豊かになるでしょう。

平川明美 推選
 落ちついた連筆で美しく流れ、行間の変化も良く捉えられ、紙面にピツタリと収まりました。墨色の変化も自然で美しい。出だしがやや堅くなり、惜しい。

藤田 以津子 推選
 最初の三文字が上手く纏まり、リズムの良い連筆は見事です。よく動いている筆線から楽しく書かれている様子が窺えます。行間がややすっきりすると更に佳。

桜井辰雄先生選評



小川美恵 師範
健康的で伸びやかな線が一回り大きく見えるようにした秀作。要所で造像記の緊張感ある筆遣いも加え、無理のない臨書作品にした点にも好感。

渡辺 花 準二
文字内に太細の線を織り交ぜ、肉厚の線質ながら「これぞ造像記！」と主張する起筆・送筆・収筆の動きが軽やかで健康的な作品を生んだ。

住吉房子 師範
ゆったりとした大らかな運筆から導かれた書線が紙に纏わり、半紙という狭い空間に形臨を超えた独特の行書の世界を描き出している秀作。

池辺和代 五段
扱い慣れた筆と淡い墨で伸びやかに気持ちよく運筆されている。原帖の独特の運筆リズムも習得され、これから意臨に向かう段階にあるか。

井上順子 準師
原帖の特徴でもある右肩上がりや控えめに、起筆から収筆まで緊張感を持たせながらも穏やかな「牛欄造像記」の臨書として仕上げた秀作。

大野 詩 初段
一本ずつの線に牛欄造像記の命を宿すかのように、穏やかにかつ緊張感を絶やさず、それぞれの収筆の先端まで丁寧に法帖と向き合った秀作。

達 美峰 師範
半紙作品であるが、軌跡から感じる筆意や躍動する運動のリズムはまるで大作を見るかのよう、ごく自然に銜いもなく表現された快作。

吉岡紗千子 二段
真摯な原帖の観察から得られた感覚を、長けた技量で運筆の勢いに強さを加え、空間取りにも配慮した「私の」臨書作品に仕上げている秀作。

塩野谷房子 準三
原帖の字形を研究され、一点一画の表情を的確にとらえて再現されている。運筆の適度な速さと強さが渴筆を生み、爽快な作品にした。

門前知怜 一級
書者と紙・墨・筆の相性も良いのか、淀みない澁潤とした書線が文字の大小を加え、紙面一杯ながら窮屈さを感じさせない健康的な秀作にした。

平子久美 八段
書者の丁寧な法帖観察とたつぷりとした柔軟な書線が、紙面が狭いと言わんばかりに躍動している。更に大小をつけるのと明るさが増すか。

奈良岡純子 準二
急ぎ足ではあるがリズムカルに運筆された書線が何とも清々しく、二行目の多彩な表情が素晴らしい。「藝」に高さが加わるとワンランクアップ。